

とう いん 東員町



- ① 七世 松本幸四郎
- ② トウインヤエヤマザクラ
- ③ 六把野井水・神田用水
- ④ 穴太薬師如来坐像

人物

東員町

しちせい まつもとこうしろう 七世 松本幸四郎

松本幸四郎という名前を聞いたことがあると思います。歌舞伎の「勧進帳」の名演技で知られる七代目松本幸四郎は、1870（明治3）年5月12日に、今の東員町長深ながふけに生まれました。小さい頃の名前は豊吉とよきちといいました。父親は土木事業を行っており、福田屋ふくだの親方といわれていました。父親の仕事の都合で4歳の時に東京に出ました。5歳で、踊りの名門藤間流家元二代目藤間勘右衛門ふじま かんえもんの養子となり、11歳で歌舞伎の九世市川團十郎いちかわだんじゅうに入門しました。

一時、歌舞伎よりも当時流行していた飛行機の発明に熱中したり、役柄やくがらに不満をもらしたと他の弟子に告げ口をされ、師匠ししょうの勘気かんきに触れて役を外されたりしたこともありましたが、厳しい稽古けいこに耐えて芸みぎを磨きました。その後、九世市川團十郎の直系の芸である、「勧進帳」を演じるなど名声を高めました。「勧進帳」の弁慶べんけい役は、不朽ふくしゅうの演技として後世に語り継がれることになりました。1949（昭和24）年に80歳で亡くなりました。

現在の九代目松本幸四郎の祖父にあたります。



七世 松本幸四郎（東員町提供）

【→P111*47】

■ 東員町には、松本幸四郎の名声を後世に伝えるためのものがあります。調べてみましょう。

自然

東員町

トウインヤエヤマザクラ

トウインヤエヤマザクラは、品種改良された桜ではなく、自然の環境の中で変異したものです。1994（平成6）年に発見され、桜の分類学上とても価値の高いものだとわかり、1996（平成8）年に町の天然記念物に指定されました。

奈良の八重桜に似ていますが、葉や花柄に毛がなく、一つの花にめしべが2本あるものがあって、開花が終わると柄の先に実が二つずつ並んで付きます。全国的にもヤマザクラの八重は珍しいものです。

1953（昭和28）年に京都府の亀岡市で発見されたコノハナザクラと同じ特徴を持っていますが、大変めずらしい品種といわれています。

東員町では、町の北部山田溜公園南駐車場の東側と弁天山の厳島神社の裏手の2か所で発見されています。

春になると、ボリューム感のある、やや薄手の淡いピンクの色合いの花を咲かせます。



トウインヤエヤマザクラ（東員町提供）

- めずらしい品種が、生活の場の近くにあるのも不思議です。私たちの身の回りに、まだまだ気がつかない自然があるかも知れません。探してみましょう。

歴史

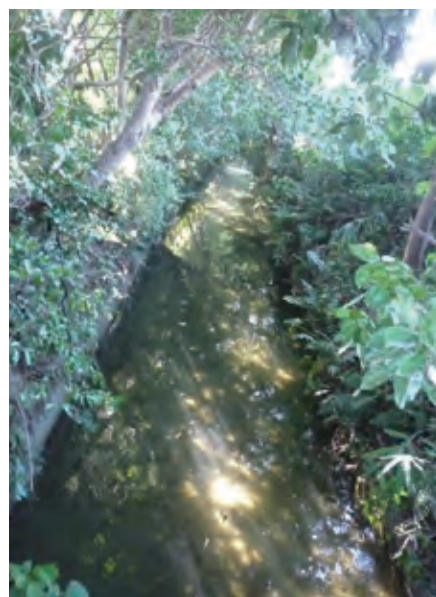
東員町

ろっばのいすい かんたようすい
六把野井水・神田用水

町の中心部を流れる員弁川の北側（左岸）は、河岸段丘の上に広がる小高い土地で、昔から大雨が降ると急に大水になり、日照りが続くとすぐに水不足になってしまう土地でした。

こうした水不足を無くそうと、江戸時代に旧北勢町の麻生田付近の員弁川から水を取り、八幡新田を経て現在の桑名市大仲新田まで幅2～5m、長さ約12kmの用水を通しました。これが六把野井水で、現在も農業用水として使われており、その一部は稲部小学校の下を流れています。

しかし、流れの一番下にあたる東員町は、その後もたびたび水不足になり、1944（昭和19）年には7月になっても田植えができないほどの大干ばつに見舞われました。人々の願いが県や国に届き、1950（昭和25）年、員弁川の水を今の笹尾の高台まで3か所のポンプで導き上げ、そこから隔々の土地に送る神田用水が完成しました。員弁川北側の土地が、水不足から解放されることになったのは、つい最近のことです。



稲部小学校横の六把野井水（稲部小学校提供）

- 東員町には万助溜や山田溜など、たくさんの溜め池があり、神田用水の碑もあります。各地域に残されている「豊かな水」を巡って工夫した人々の足跡を調べてみましょう。

文化財

東員町

あ の う や く し に よ ら い ざ ぞ う
穴太薬師如来坐像

薬師如来坐像は、穴太の神田神社
に隣接する薬師堂に安置されています。

平安時代中頃の作品とされ、県の有形文化財に指定されています。一本のヒノキから作られた「一本造」の仏像で、高さは二尺九寸五分（約90cm）、蓮の花をかたどった台座（蓮華座）の上に結跏趺坐（左の足を右のものの上に置き、右の足を左のものの上に置いて座る座り方）しています。左手には薬つぼ（薬壺）を持ち、右手は、手のひらを前に向けた、「恐れなくてよい」と相手を励ますサインである「施無畏の印」を表しています。目がやや切れ長でりりしい顔立ちをしています。

仏像をよく見ると薄く色がついていますが、これは、江戸時代に修理を行った際、体を金色に、衣を黒色に、髪の毛（羅髮）を紺色に、口を朱色に、背を灰色に塗ったためのものです。

鎌倉時代、この地の守護であった藤原実重の日記によると、かつてこの地に穴太山多井寺という大きな寺があったと記されています。



薬師如来坐像（東員町提供）

■ みなさんの地域にある文化財を調べてみましょう。

COLUMN
コラム

三重の石取祭

8月第1土・日曜日に桑名市春日神社周辺で行われる石取祭はその規模も大きく「天下の奇祭」と呼ばれるほどです。これ以外にも、「石取祭」は三重県北勢地方に数多く点在しています。ここでは地域の祭りとして伝統的に開催されている他の石取祭を紹介しましょう。

- ◆桑名市 赤須賀地区：赤須賀神明社周辺
多度七取地区：内母神社周辺 など
- ◆東員町 穴太地区：巖島神社
六把野地区：六把野神社 など
- ◆川越町 豊田一色地区：神明神社周辺 など
- ◆四日市市 富洲原天力須賀地区：住吉神社周辺
富田地区：鳥出神社周辺
八郷地区：山分町山分天満宮、千代田町鶴澤神社
大矢知地区：松寺町神明社 など
- ◆鈴鹿市 神戸地区：神戸宗社周辺 など

各地の石取祭は7月～10月に行われており、太鼓や鉦の音とともに祭車をひきながら町を練り歩くさまは共通しています。上記以外でも各地でにぎやかに石取祭が行われています。あなたの町の石取祭も調べてみましょう。

【→P110*8】